

2018年4月17日(火)

(P1804-B)

サービス付高齢者住宅「食事サービスと栄養ケア」に関する実態調査

## 9割超のサービス付高齢者住宅で食事サービスを提供、誤嚥・窒息等に配慮も、4割の施設“食形態に不安”

—摂食・嚥下機能を判断する専門医療の支援が急務—

ニュートリー株式会社(本社:三重県四日市市、代表取締役社長 川口晋、以下、ニュートリー)は、2017年9~11月に、サービス付高齢者住宅(以下、サ高住)の施設長を対象に、施設が提供する「食事サービスと栄養ケア」の実態把握のための調査を実施しました。

通常の食事から十分に栄養素を摂取できない方のために、栄養・嚥下補助食品を開発・製造・販売するニュートリーは、在宅介護現場の一つである、サ高住の食事サービスの実態と課題を明らかにすることが、高齢者の栄養ケアに対する意識を高めるきっかけとなり、さらに栄養療法への取り組みを推進する一助になると考え、本調査を実施いたしました。

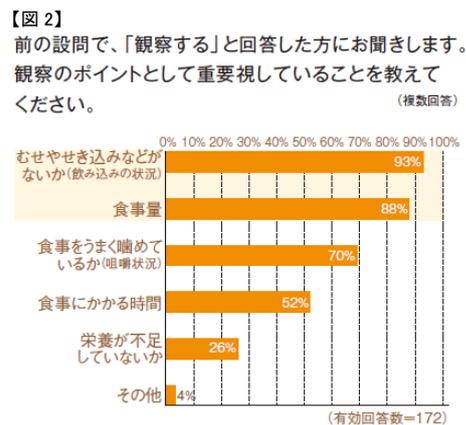
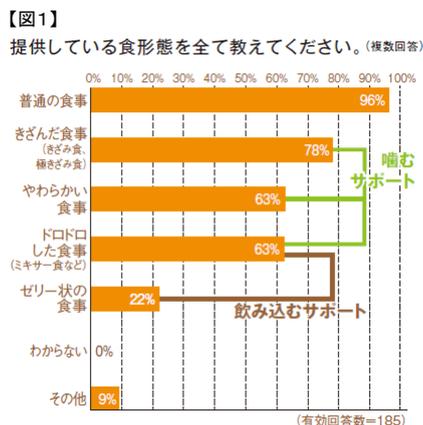
### アンケート調査結果概要

- 99%が食事サービスを提供。96%が入居者の摂食・嚥下機能に合わせ、食形態を個別調整。
- 「むせ・咳き込み等」を観察ポイントとして重要視。41%の施設で、提供している食形態に不安・疑問。
- 「死亡」、「持病の悪化」、「介護度進行」で退去。退去理由となる主な疾病は「がん」、「肺炎」。
- 5割を超える施設が栄養相談に対応。相談内容は「食事量の減少」、「食形態」、「体重減少」。
- 「食事量の減少」を理由に、栄養補助食品を使用。カロリー、水分、少量高栄養が選定ポイント。
- 低栄養予防が期待される「スマイルケア食品」の認知度24%。
- 87%の施設でサ高住の「質」を改善必要と回答。しかし、サービスの充実が図れない弊害あり。

### アンケート調査結果詳細

- 99%が食事サービスを提供。96%が入居者の摂食・嚥下機能に合わせ食形態を個別調整。

サ高住の登録条件は「安否確認」、「生活相談」ですが、本調査で回答施設の99%が「食事サービス」を提供していることがわかりました。また96%の施設が利用者の摂食・嚥下機能に合わせて食形態を個別に調整していると回答しています。提供している食形態は「普通食」が最も多く、次に「きざみ食・極きざみ食」、「ペースト食・ミキサー食」、「やわらか食」と続いています(図1)。



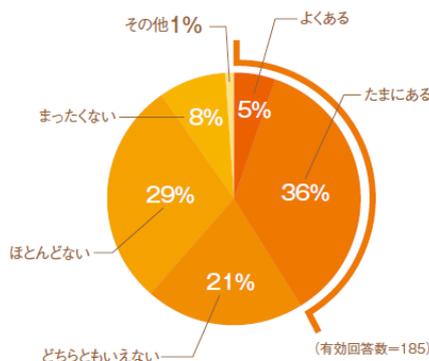
# NÜTRI: ニュートリーからのお知らせ

## ●「むせ・咳き込み等」を観察ポイントとして重要視。41%の施設で、提供している食形態に不安・疑問。

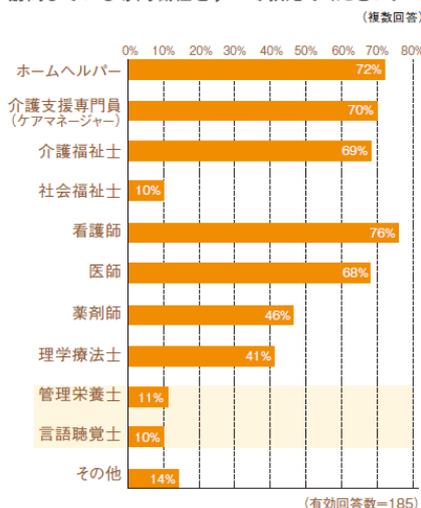
回答施設の 93%で「食事の様子を観察する」と回答し、食事時の観察ポイントとして、特に「むせやせき込み等の飲み込み状況」と「食分量」を重要視(図 2)していました。入居者に対して個別に食形態を調整し、提供していると回答するものの、41%の施設が「提供している食形態が利用者に適しているか、不安・疑問を感じている」(図 3)と答えています。背景として施設スタッフはホームヘルパーや介護福祉士等の介護職員が中心で入居者の摂食・嚥下機能と食形態のマッチングを判断できる専門職種(医師、歯科医師、管理栄養士、言語聴覚士等)が駐在していないことが原因の一つと考えられます。

また看護師、医師らが訪問診療を行っていますが、嚥下機能を観察する言語聴覚士、食形態を調整し指導する管理栄養士は各々1割の訪問に留まっている(図 4)こともマッチングの根拠を得られず、食形態に不安・疑問を感じる要因と考えられ、今後の支援が急務であると考えられます。

【図 3】 提供している食形態が利用者に適しているか、疑問・不安を感じることはいくらですか？ (一っだけ回答)



【図 4】 入居者が受けている訪問看護・介護サービスで、訪問している専門職種をすべて教えてください。



## ●「死亡」、「持病の悪化」、「介護度進行」で退去。退去理由となる主な疾病は「がん」、「肺炎」。

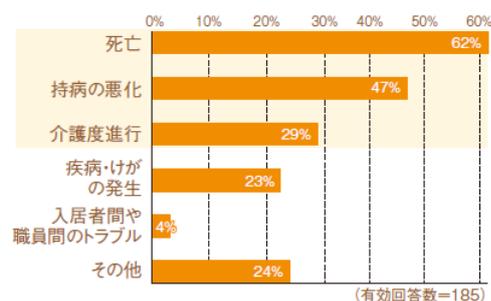
入居者は認知症、高血圧、糖尿病などの既往歴を有していました。サ高住は自立を中心とした施設といわれていますが、医療依存度や要介護度の高い入所者の受け入れや看取り対応をしている施設もあり(79%)、要介護度 1~2 が 42%、要介護度 3~5 が 33%と要介護者が 7 割を超えていました。入居時に自立であっても要介護度が次第に上がることが予測されます。

サ高住に入居後、直近 1 年での退去理由として多いのは「死亡」、「持病の悪化」、「介護度進行」の順でした(図 5)。持病や介護度が悪化すれば、「終の棲家」として入居したサ高住から、生活の場を移さざるを得ず、実際、本調査から「介護保険施設」、「療養型医療施設」へと移り住んでいることがわかりました。さらに「死亡」、「持病の悪化」、「介護度進行」を理由に退去する入居者の主な疾病をフリーコメントから深堀すると、「がん」、「肺炎」、「老衰」の順でした。肺炎については 70 歳以上の肺炎罹患者のうち、約 7 割が誤嚥性による肺炎というデータ※1 もあり、入居者の平均年齢 84.4 歳※2 を考慮すると、「誤嚥性肺炎」の場合が多いことが考えられます。

※1 誤嚥性肺炎:オーバビュー寺本信詞 日胸:68 巻 9 号,2009 年 9 月

※2 厚生労働省 社会保障審議会(介護給付費分科会)第 102 回(H26.6.11)資料 2

【図 5】 直近 1 年間の退去者について、主な退去理由として多いものを 3 つまで教えてください。



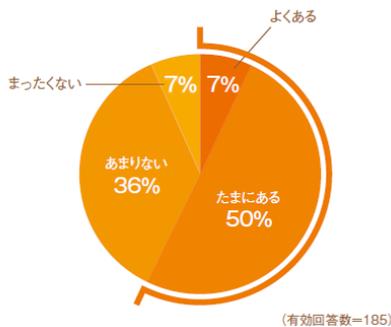
# NÜTRI: ニュートリーからのお知らせ

- 5割を超える施設が栄養相談に対応。相談内容は「食事量の減少」、「食形態」、「体重減少」。  
入居者や家族から食事や栄養に関する相談を受けると回答した施設は57%（図6）でした。栄養相談の内容は「食事量の減少」、「食形態」、「体重減少」についてが多くみられました。
- 「食事量の減少」を理由に、栄養補助食品を使用。カロリー、水分、少量高栄養が選定ポイントに。  
食事量が減ってきた入居者がいると回答した施設は62%（図7）おり、その際、「医師への相談」、「栄養補助食品の使用」、「食形態の変更」等の対応が行われていました。  
入居者の食事量（栄養量）が充足できない場合、82%の施設が栄養補助食品を使用（図8）すると回答し、使用理由の多くが「摂食・嚥下機能低下等による食事量の減少」でした。「医療機関の指示」、「本人との相談」等を開始のきっかけとして「カロリー補給」、「水分補給」、「少量高栄養補給」が使用目的でした。購入者は「入居者（72%）」が中心で「施設（13%）」の場合もありました。また入居者に栄養補助食品の使用を薦める施設は64%でした。
- 低栄養予防が期待される「スマイルケア食品」の認知度24%。  
飲み込むこと、嚥むことができない高齢者の低栄養予防が期待されている新しい介護食品「スマイルケア食品」を知っていると回答した施設は24%で、7割以上が知らないと回答しました（図9）。在宅療養者の高齢者で約7割が「低栄養」状態であるといわれており<sup>※3</sup>、「スマイルケア食」の普及が望まれます。
- 87%の施設でサ高住の「質」を改善必要と回答。しかし、サービスの充実が図れない弊害あり。  
サ高住の「質」を改善する必要があると回答した施設は87%（図10）でした。改善内容として「入居者とのコミュニケーション機会の充実」、「リハビリサービスの充実」、「食事サービスの充実」が必要と回答しています。しかし、フリーコメントから職員不足、職員の意識・知識・技術面の問題、金銭的問題、委託給食の介入による限界、入居者・家族のサービスに対する理解不足などが改善の弊害としてあげられました。

※3 独立行政法人国立長寿医療研究センター「在宅療養患者の摂食状況・栄養状態の把握に関する調査研究」（平成24年）

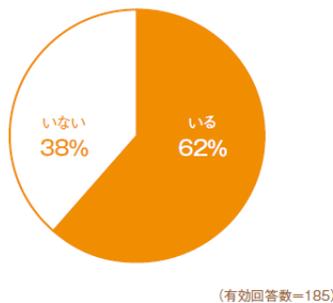
【図6】

事業所の入居者やその家族から、食事や栄養に関する相談を受けることはありますか？（一つだけ回答）



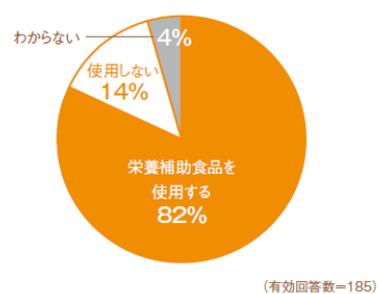
【図7】

食事量が減ってきた入居者はいますか？（一つだけ回答）



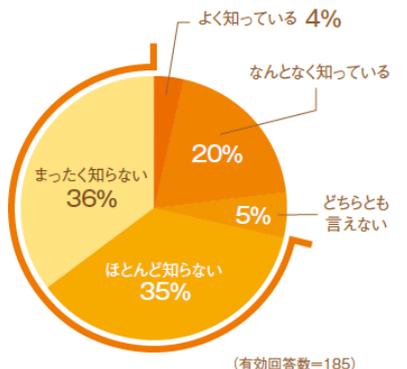
【図8】

入居者の食事量（栄養量）が確保できない場合、栄養補助食品を使用することはありますか？（一つだけ回答）



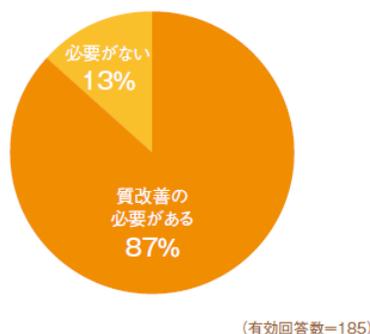
【図9】

飲み込むこと、嚥むことができない高齢者等の低栄養予防が期待されている新しい介護食品「スマイルケア食」を知っていますか？（一つだけ回答）



【図10】

サ高住の「質」を改善する必要があると思いますか？（一つだけ回答）



# NÜTRI: ニュートリーからのお知らせ

## 調査概要

- ・調査内容 : サービス付高齢者住宅「食事サービスと栄養ケア」に関する実態調査
- ・調査目的 : 在宅介護現場の一つであるサービス付高齢者住宅の食事サービスと栄養ケアの実態把握
- ・調査方法 : 郵送調査
- ・調査時期 : 2017年9月30日～11月26日
- ・調査対象 : 全国のサービス付高齢者住宅 6,500 施設(施設長対象)
- ・回収方法 : FAX 及びインターネットにて回収
- ・回答総数 : 185 件(回答率 2.8%)
- ・調査主体 : ニュートリー株式会社(協力:メディバンクス株式会社 ニュートリション・ジャーナル編集部)
- ・結果報告 : [http://www.nutri.co.jp/news/docs/pdf\\_questionnaire\\_results\\_1802.pdf](http://www.nutri.co.jp/news/docs/pdf_questionnaire_results_1802.pdf) (全文掲載)

## サービス付高齢者住宅とは

2011年の「高齢者の居住の安定確保に関する法律(高齢者住まい法)」改正に伴い、建築費の助成、不動産関連の税金軽減などの後押しもあり、建設が急激に進んでいる高齢者向けの住宅です。2011年スタート時の3500戸から翌年3万戸、2018年に約23万戸、2025年に約100万戸に上るといわれています\*4。今後、生活に不安を持つ高齢者の住まいの主流として“終の棲家”になるといわれています。

\*4 サービス付き高齢者向け住宅の登録状況(H30.3末時点) [https://www.satsuki-jutaku.jp/doc/system\\_registration\\_01.pdf](https://www.satsuki-jutaku.jp/doc/system_registration_01.pdf)

## ニュートリー株式会社について <http://www.nutri.co.jp>

通常の食事から十分に栄養素を摂取できない方のために、嚥下補助食品・栄養補助食品・流動食を開発・製造・販売しています。特に、嚥下補助食品のパイオニア企業として、加齢や疾患により飲み込み能力の低下した方が、飲み込みやすくする目的で使用する粉末の嚥下補助食品(とろみ材・ゼリー化材)の「ソフトシアシリーズ」や農林水産省が定めた新しい介護食の愛称「スマイルケア食」における飲み込むことに問題がある方向けの食品に表示される「赤0マーク」の利用許諾を得た「アイソニックゼリー」、「プロッカZn」、「ブイ・クレスゼリー」\*5等を代表製品として開発すると共に、嚥下障害と嚥下食の認知度向上の為、普及に努めています。



とろみ材「ソフトシアS」



スマイルケア食「赤0」マークを取得した製品

\*5 消費者庁より特別用途食品・えん下困難者用食品として許可を取得しています。

<input type="checkbox"/> 社名・所在地	ニュートリー株式会社 〒510-0013 三重県四日市市富士町1-122
<input type="checkbox"/> 代表取締役社長	川口 晋
<input type="checkbox"/> 設立	昭和38年2月
<input type="checkbox"/> 資本金	215百万円
<input type="checkbox"/> 売上高	2,709百万円(2017年3月期) ※決算期変更の為、6ヵ月変則決算
<input type="checkbox"/> 事業内容	栄養療法食品並びに嚥下障害対応食品等の開発、製造及び販売
<input type="checkbox"/> お問い合わせ先	ニュートリー株式会社 広報:横山 電話:03-3206-0107 東京支店:〒104-0033 東京都中央区新川2-1-5 THE WALL 4階